野球競技における投手の配球についての一考察

木戸　大地　（競技スポーツ学科　コーチングコース）
指導教員　渋谷　俊浩

キーワード：野球競技，バッテリー，配球，初球

1. 緒言

近年，野球競技人口は減少傾向にある．その原因の一つとして，J リーグに代表されるサッカー競技の隆盛が推察される．

しかしながら，依然野球競技は人気の高いスポーツであることは間違いない．特に，日本の野球競技の競技力は，WBC で 2 回優勝するなど，世界の中でもトップレベルである．

このように競技力が高い要因の一つとして，日本野球の頭脳的なプレー・戦術が挙げられる．中でも，バッテリーの配球は勝利を左右しうる非常に重要な役割を担っていると考える．

そこで，本研究の目的は，2016 年プロ野球日本シリーズでの投手の配球に着目したうえで，その中でも非常に重要とされている「初球」について調査・分析し，打者を打ち取るために有効な配球の組み立てを明らかにすることで，野球競技，特にバッテリーのパフォーマンス向上の一助とすることとした．

2. 研究方法

2016 年プロ野球日本シリーズ全試合の VTR を視聴し，両チームのバッテリーの全配球を配球スコアブックに記録した．

さらに，両チームのバッテリーの配球の「初球」に着目し，球種・コース・ストライクかボールかについて調査し，　さらに統計分析ソフト IBM SPSS Staictics19 を用いた分析結果に対して，先行研究との比較・検討を加えた．

3. 結果および考察

「初球」の球種については，全球種の中で圧倒的にストレートが多く，6 試合でトータル約 53%となった．

コースでは，アウトコース低めに投球することが多く，全試合で 23%を占めていた．一方で，投球されている数が少なかったのは真ん中であり，全試合で 3%であった．

初球がストライクかボールかについては，ストライク・ボールとも約 46%と，ほぼ同数であった．

以上の結果から，日本ハムバッテリーの配球の組み立てはストライク先行というセオリーとは異なっていたが，先行研究にある「投手重視・打者重視・状況重視」の 3 パターンを上手く使い分けており，このような組み立ての配球をしたことで，短期決戦である日本シリーズにおいて日本ハムバッテリーが広島打線を抑え，チーム日本一に大きく貢献したと推察された．

4. 提言

今後は，日本シリーズのような短期決戦に限らず，高校野球のようなトーナメント大会や，プロ野球ペナントレースのような長期に渡るリーグ戦など，様々なカテゴリー・試合形式を対象に調査・分析することで，さらに有用な知見を得ることが望まれる．

引用・参考文献

古田敦也（2009）フルタの方程式　朝日新聞出版

井上一彦（2015）大学野球における状況別打撃結果についての一考察　岩手県立大学　リベラル・アーツ 9，49-68

野村克也（2009）弱者の兵法　アスペクト文庫